

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和 元 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		障害児介助員等配置事業				②事業番号		7203					
③事業類型		8. 人件費事業		④開始年度		年度		⑤終了予定年度		年度		設定なし	
⑥根拠法令等		○ 法令		○ 条例		○ 規則		○ 要綱		○ 計画等		○ その他	
⑦実施手法		○ 直営		○ 全部委託		○ 一部委託		○ 補助・負担		○ その他			
⑧関連予算科目コード		款		9		項		1		目		3	
⑨担当部名		教育部		⑩担当課名		学務課				会計		一般	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 公立小・中学校に通学する障害等の理由で支援を必要とする児童・生徒		① 障害等で支援を必要とする児童・生徒		人	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
小・中学校生活を行う際に、個別的な支援を必要とする児童・生徒を、保護者の申し立てや、教職員の観察等により、支援の必要度を検討し、その必要度に応じて職員を配置し小・中学校生活全般をサポートする。		① 配置介助員数		人	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
支援を必要とする子どもが、安心して小・中学校生活をすごすことができる。必要な力を身につけ、就学することができる。		① 介助員配置率		%	
		① 計算式		配置人数÷障害等で支援を必要とする児童生徒	
		②			
		② 計算式			
		③			
		③ 計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
障害があってもなくても、すべての子どもには、学び遊ぶ権利がある。必要な支援を受けることで、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力が育ち、集団生活の中で生きる力が育まれる。		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
		施策大(節) 3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします			
		施策中 2 義務教育の充実			
		施策小 3 とともに学びともに育つ学校づくり			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標①	障害等で支援を必要とする児童・生徒	人	79	78	75	72	72	
対象指標②								
活動指標①	配置介助員数	人	34	34	33	34	34	
活動指標②								
活動指標③								
成果指標①	介助員配置率	%	43	44	44	47	47	
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員	正職員	人	0.07	0.11	0.20	0.20	事業費などの推移における 特殊要因などの説明
		任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		臨時職員	人	33.00	29.00	33.00	34.00	
	事業費	人件費(投入人員×単価)	千円	54,517	49,148	56,586	58,254	
		直接事業費	千円	0	0	0	0	
財源内訳		総事業費	千円	54,517	49,148	56,586	58,254	—
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	府支出金	千円	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0	
	その他特定財源	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	54,517	49,148	56,586	58,254		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	発達がゆるやかで、障害をもった子ども達には、安心できる環境の中で個々に、一人ひとりの発達にあった指導が必要であるから。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	小・中学校の支援を必要とする子ども達の数が増加している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価	A
--------	---

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価	A
--------	---

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価	A
--------	---

4. 総合評価

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで)	エ. 休止 ↓ (年から)	オ. 廃止 ↓ (年から)
	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など	—				
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	現状のまま継続していくことが望ましいと考えるが、令和2年度からは、臨時職員を「会計年度任用職員」としての任用となることから、今まで以上の予算措置が必要になると考えられる。				